

令和6年3月26日

山形大学「つなぐちから。」 社会共創活動推進プロジェクト  
実施報告書

報告者名	中西 淑美	
団体名および構成員 <small>※団体で活動を行った場合のみ記載 (欄が足りない場合は行を追加して記入してください。)</small>	団体名 Mediation Café ♪ (山形大学 医学部 総合医学教育センター 中西研究室)	
	氏名	所属
	中西 淑美	山形大学医学部 総合医学教育センター
	成田 雪美	医療法人 運忠会 土崎病院 看護部長
	笹木 明美	医療メディエーター (対話推進者) (元医療安全管理者)
	宮野 はるみ	中通り総合病院 元看護部長
	船越敏幸	JCHOあきた病院事務長補佐 (医療対話推進者)
活動名	尊重・協働の対話推進者の人材育成-市民と創る協働対話	
連携して活動を行ったプラットフォーム加盟機関名	山形県医師会と山形県医療ADR学術研究会と山形大学医学部	
活動報告	<p>予 定した計画に則り、2023年9月より以下の医療メディエーションによる協働対話の会を計画を策定し実施した。 1. 対象と開催：2023年9月21日(木)、10月19日(木)、11月16日(木)、2024年2月8日(木)2月9日(金)、2月15日(木)、3月18日(月)の7回、山形市民や秋田市民など自殺の多い県民を対象に、Web オンライン(4回)と会場開催(JCHOあきた病院にて1回)で協働対話の会を開催した。</p> <p>2. 内容：9月から11月は、医療者との医療紛争事例、患者の声を聴く事例検討会、2月は市民と対話の会「ハラスメントを考える」、「中高年世代と定年退職について考える対話」を開催し、3月は「AYA世代20代の子と親との対話」を開催した。</p> <p>3. 山形県医師会からの共催の許諾を受け、また山形大学医学部のADR学術研究会ともタイアップして、医療メディエーションによる協働対話の会Mediation Café♪のHPを作成した。</p> <p>4. 12月7日(木)、エフエム山形ラジオ「知識の常備薬」という番組で、「知識の常備薬」というコーナーで、協働対話(医療メディエーションについて)の紹介を実施し、人と人をつなぐ信頼構築や不安減少、情報共有のある相互交流の対話について説明し放送された。</p> <p>《実施した効果》参加者の講評や感想から、【医療メディエーション(協働対話)の特徴】を理解していただくことができた。相手を尊重し、①結果からではなくプロセスからの対話過程をもつ②関心やコンフリクト(認知の違い)を焦点化し、③互いに尊重し関係構築に努めて、双方の意思決定を支援、④双方の視点から見る医療の質や安全の視点で検討、⑤情報共有・相互理解による協働意思決定の対話過程を目指すことで楽しい建設的な癒されるとの好評を得た。社会共創として、協働対話で、人材育成教育への支援・発展ができること、産学連携への示唆を得ることができた。</p>	

実施スケジュール	<p>《スケジュール》 2023年9月21日（木）、10月19日（木）、11月16日（木）の3回は、各回18時～20時30分の時間枠で、医療者との医療紛争事例、患者の声を聴く、医療者の思いを語る事例検討会を開催し、毎回80名以上の参加があった。、2024年2月8日（木）2月9日（金）、2月15日（木）は、Webではあったが、3時間ずつ、異なるメンバーで患者さん市民としての医療者が果たすべき倫理教育、医療安全教育、ハラスメントと何か、中高年世代と定年退職について考える、等のテーマで開催し少人数（20名以内）で実施した。3月18日（月）はJCHOあきた病院にて会場開催として、「AYA世代20代の子と親との対話」で20代の男女青年と中高年の半数ずつで10名で実施し再帰的思考のある対話過程とした。</p>						
支援金の用途報告	合計 100,000 円						
	(内訳)	(品名・使途他)	(数)	×	(単価)	=	(金額)
	その他	学会参加費（コンフリクトに関する）	1	×	8,000	=	8000円
	物品調達	学会参加費（臨床倫理）	1	×	8,000	=	8000円
	その他	学会参加費（医療の質・安全）	1	×	8,000	=	8000円
	物品調達	ホームページ制作	1	×	50,000	=	50000円
	その他	書籍代（参考図書）	1	×	8,000	=	8000円
	物品調達	臨床倫理オンラインセミナー（会で活用）	1	×	18,000	=	18000円
次年度の計画について	<p>筆者は、日本医療機能評価機構の医療対話推進教育構築・人材育成の診療報酬獲得の実績を持ち、その人材育成を山形大学の中でやっていきたいです。次年度は、もっと共創の理解が深まるように、医療者・非医療者を超えて、パワーハラスメントを考える会、若者にとって魅力的な共創社会を考える会、患者さんの思いを理解する医療者・患者間の対話の会、いじめの加害者・被害者の対話の会、倫理を考える対話の会、裁判を考える会などを毎月開催します。多様な人々とのさまざまな意見交換をすることで、山形の共創意識を高め、人材育成のプログラムを作成したいです。</p>						
本事業へのご意見・要望	<p>昨年採択されて対話を重ねることで、継続的な人材育成や教育の必要性を感じました。医療界で診療報酬のついた医療対話推進教育の創始者として、山形県で、東北地方の県民にもっと支援したいと思います。価値尊重の多様性の時代、若男女を問わず、市民が活躍する時代には、社会共創やSDGsの考え方が不可欠です。数年間の継続的な取り組みとして支援をお願い申し上げます。</p>						
活動に関するHPや情報がございましたら、URLの添付をお願いいたします。	<p style="text-align: center;">山形県医師会 (<a href="https://www.yamagata.med.or.jp/">https://www.yamagata.med.or.jp/</a>) と山形県医療ADR学術研究会 (<a href="https://www.adr-yamagata.com/">https://www.adr-yamagata.com/</a>) と医療メディエーションによる協働対話の会 Mediation Cafe♪のHP <a href="https://www.mediatin-cafe.com/">https://www.mediatin-cafe.com/</a></p>						
<p>┃ この報告書はA4版表裏1枚以内で作成の上、メールに添付して提出してください。</p>							
<p>問い合わせ先：山形大学総務部総務課社会共創推進事務室 TEL：023-628-4615 MAIL：yu-shakaikyousou@jm.kj.yamagata-u.ac.jp</p>							